

# みわ由美<sup>よしみ</sup> 14927票獲得も議席得られず **日本共産党**

引き続き、大震災の救援・復興、原発政策の根本的見直し、福祉と防災のまちづくりに全力でがんばります

## 県議選松戸選挙区の結果について

松戸市民のみなさん、昨日投票された県議会議員選挙松戸選挙区(定数7)では、日本共産党のみわ由美は、14,927票を獲得しましたが、議席を得ることができませんでした。市民のみなさんの期待に応えることができず、お詫びいたします。

今度の県議選は、大震災と原発事故という、戦後最悪の大災害のもとでたたかわれました。日本共産党は、犠牲になられた方々に深い哀悼の意を表するとともに、肉親やお知り合いを亡くされた方、避難所で厳しい生活をされているみなさんに、心からのお見舞いを申しあげます。

日本共産党は大震災発生以来、志位委員長を災害対策本部長に、救援活動を全力で取り組み、原発事故の危機に対しては、政府にも対策の提案をするなど協力してきました。全国で4億4千万円の義援金を集め、被災3県と75自治体に届けました。松戸でも、みわ由美を災害対策本部長に、被害調査や市内被災宅と福島からの避難者のお見舞い活動、救援募金活動、計画停電や電車の運行状況のお知らせ活動を全力でとりくみ、救援募金は昨日までに、204万5779円が寄せられ、被災地に送りました。

私たちは、被災地の救援・復興、原発危機回避に国が全力を傾注すべきであり、いっせいで地方選挙は全国的に延期すべきと主張しました。しかし、民主、自民、公明の同意が得られず、被災3県以外は予定通り行われました。選挙がおこなわれることが確定的になった時点で、私たちは今度の選挙を「救援・復興選挙」と位置付け、救援活動も全力で取り組みつつ、原子力行政とエネルギー政策の根本的転換、大企業減税や米軍思いやり予算、政党助成金をやめて5兆円を復興財源に、さらに「震災復興国債」を、使い道に困っている大企業の内部留保で引き受けてもらうなどの提案、そして県政でも巨大開発のムダ使いをやめ、福祉と防災一体のまちづくり政策を堂々と訴えぬぎました。

こうしたなかで、原発の危険性を早くから警告して対策を要求してきた日本共産党の立場、原発依存のエネルギー政策から、自然エネルギー、低エネルギー社会への転換の訴えが、広く有権者の期待と共感をいただきました。

しかし、みなさんの期待と関心に党の力が追い付かず、大激戦に競り勝つことができませんでした。4年後の捲土重来を期し、今後とも、救援活動、福祉と防災のまちづくりに全力をあげながら市民の期待に応えられる大きくて強い党をつくるためにがんばります。引き続き、いっせいで地方選挙後半戦でも、日本共産党への支援を、よろしくお願いします。

二〇一一年四月十一日 日本共産党松戸・鎌ヶ谷地区委員会

候補者	党派(現新)	得票
河上茂	自民・現	24,055
川井友則	みんな・新	17,088
本清秀雄	自民・現	16,472
藤井弘之	公明・現	15,942
秋林貴史	公明・現	15,883
松戸隆政	みんな・新	15,521
湯浅和子	民主・現	15,511
みわ由美	共産・現	14,927
遠藤英喜	民主・現	10,232